

元気なうちは年齢に関係なく働きたい 働く60代男性たちの仕事やくらしへのおもい

生活者研究センター
ヒューマンヘルスケア研究室

日本人の平均寿命は男女ともに80歳を超え、100年生きることを想定した「人生100年時代」に向けた議論も始まっています。こうした超高齢社会の進行、さらには少子化による労働力人口の減少を背景に、2013年には65歳までの安定した雇用確保が企業に義務付けられ、すでに男性の就業率は60代後半でも5割を超えています*。60歳以降も「働く」という選択肢が一般的になった今、現在働いている60代男性たちの仕事やくらしへのおもいについて報告します。

※総務省「労働力調査」(平成29年平均)

- 60代男性たちの高い有職率と就業意欲
- 働く理由は「健康のため」「規則正しい生活」「人との交流」
- 仕事は自分のペースで、家族や自分の時間を大切に
- 仕事・家族・これからの人生へのおもい
- 60代を見据えて、今後の生き方を考える

【調査概要】

「働く実態・働く意識・健康意識と行動・生活価値観」

調査期間：2017年9月

調査方法：インターネット調査

調査対象：1都3県(埼玉・千葉・神奈川)在住55～74歳男性

回答者数：1,600人

「シニア男性の働く実態とおもい、暮らしへのおもい」

調査期間：①2017年3月 ②2017年6月

調査方法：家庭訪問インタビュー

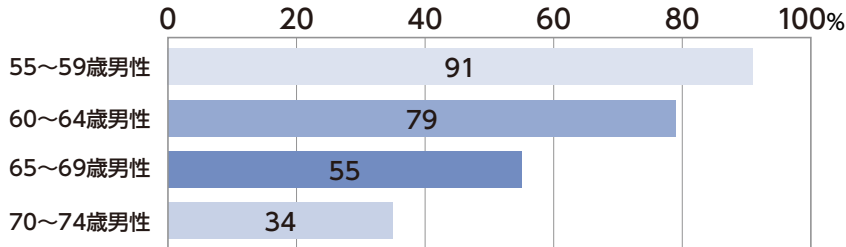
調査対象：1都3県(埼玉・千葉・神奈川) 在住60代有職男性

対象者数：①3人 ②12人

60代男性たちの高い有職率と就業意欲

日本老年学会は2015年『第29回日本老年学会総会 シンポジウム』において、「最新データでは高齢者の身体機能や知的能力は年々若返る傾向にあり、現在の高齢者は10～20年前に比べて5～10歳は若返っていると想定される。」という声明を発表しました。

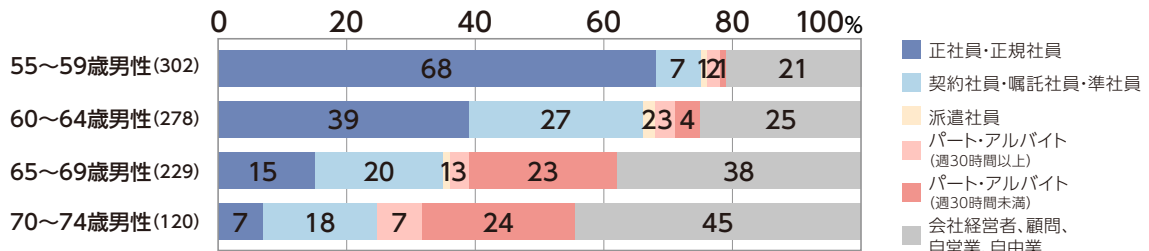
一方、総務省の「労働力調査」(平成29年平均)によると、男性の有職率は、60代前半で79%、後半で55%でした(図1)。



(図1)有職率

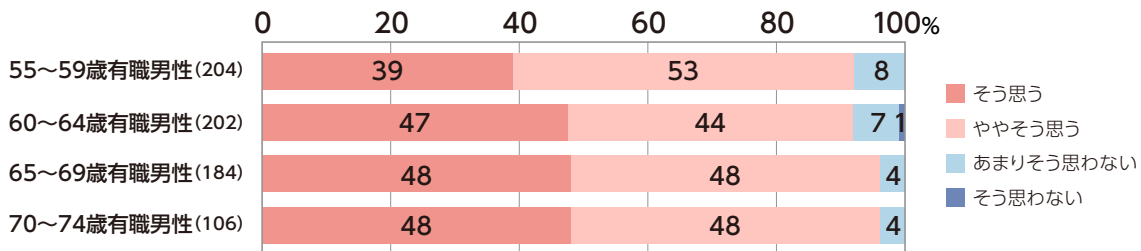
出典)総務省「労働力調査」(平成29年平均)

花王の調査から、有職者の働き方を見てみると、正社員比率は、50代後半で68%、60代前半で39%、後半で15%と年代が高くなるにつれてその比率は下がり、正社員以外の働き方が増えていました(図2)。また、今後も就労意向のある60代有職男性の90%以上が「年齢に関係なく、元気なうちは働きたい」と考えていることがわかりました(図3)。さらに、60代後半では88%、70代前半では86%が「あと5年以上働きたい」と考えていて、就業意欲の高さがうかがえます(図4)。



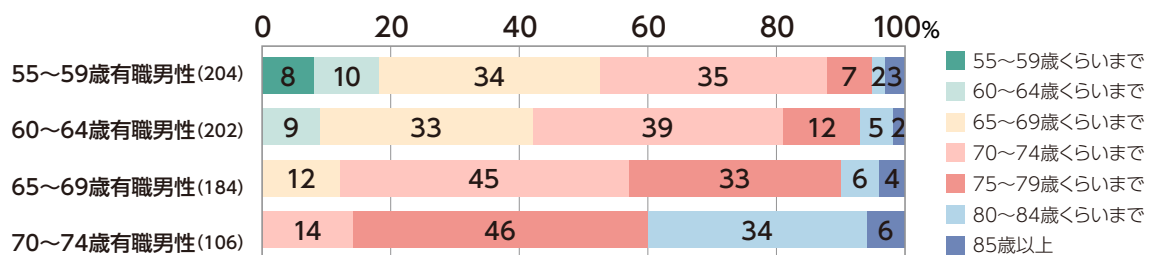
(図2)有職者の就業状態

55～74歳 1都3県在住 有職男性 929人 (花王 生活者研究センター調べ)



(図3)年齢に関係なく元気なうちは働きたい

55～74歳 1都3県在住 今後就労意向のある有職男性 696人 (花王 生活者研究センター調べ)

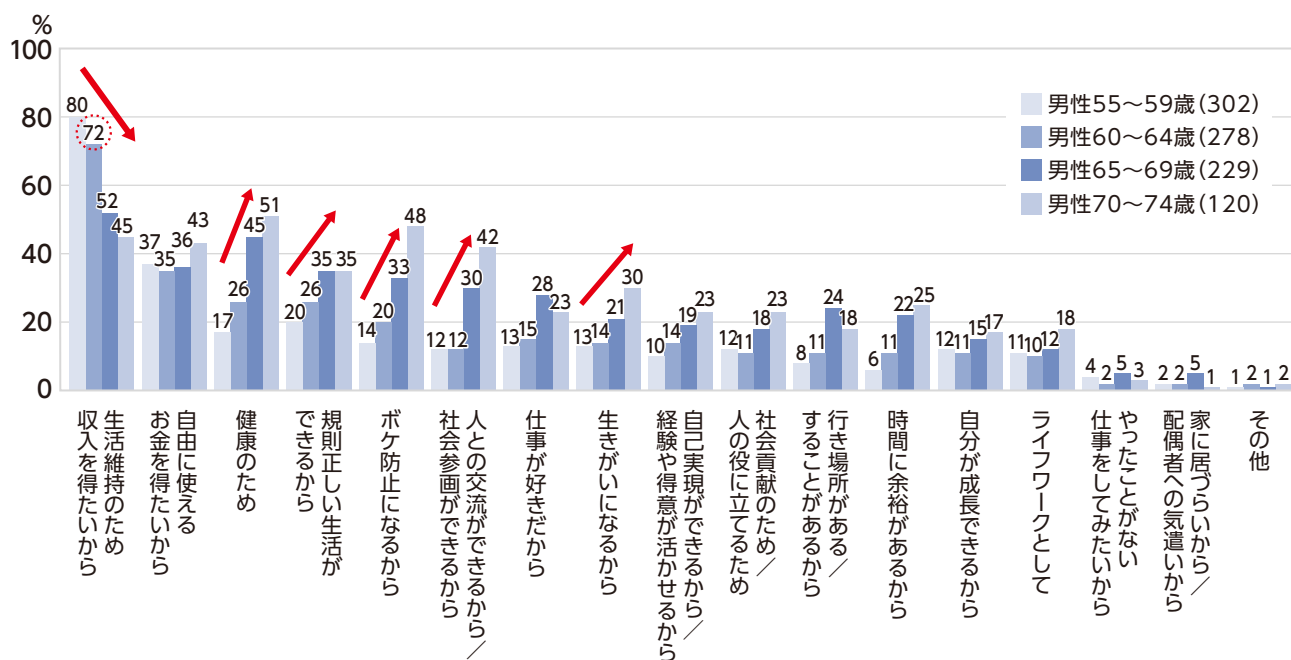


(図4)仕事をしたい年齢

55～74歳 1都3県在住 今後就労意向のある有職男性 696人 (花王 生活者研究センター調べ)

働く理由は「健康のため」「規則正しい生活」「人との交流」

働く60代男性たちが現在、仕事をしている理由は、60代前半までは「生活維持のため」が他を大きく引き離して7割を超えています。60代後半では約5割まで減少しています(図5)。背景には、年齢とともに教育費や住宅ローンなどの負担が軽くなることや、65歳が年金支給開始年齢であることなどが考えられます。そして、60代後半からは「健康のため」や「規則正しい生活ができる」「ボケ防止になる」「人との交流ができる」「生きがいになる」といった理由が増加しています。訪問インタビューでも、収入が年金だけで足りるかなどの不安を持ちつつも、「仕事は生活の糧であると同時に生きがいの一つでもある」など、収入目的以外の仕事への前向きなおもいが聞かれました。働く60代男性たちにとって「働く」ことは、経済的な理由にとどまらず、健康の助けや生きがいとなるなど、今後の人生をより良く生きるための手段の一つとなっているように見受けられます。



(図5)現在、仕事をしている理由

55～74歳 1都3県在住 有職男性 929人
(花王 生活者研究センター調べ)

働く60代男性たちの仕事へのおもい(訪問インタビューより)

健康

- 健康で規則正しい生活につながり、生活の中で大きな比重を占める(62歳)
- 毎日同じ時間に同じ行動をすることは健康に良い(64歳)
- ボケ防止のために良い(64歳)

つながり

- 仕事をしないとつまらない(64歳)
- 社会とのつながり。人間関係(66歳)
- 交際・人とのつながり(68歳)

生きがい

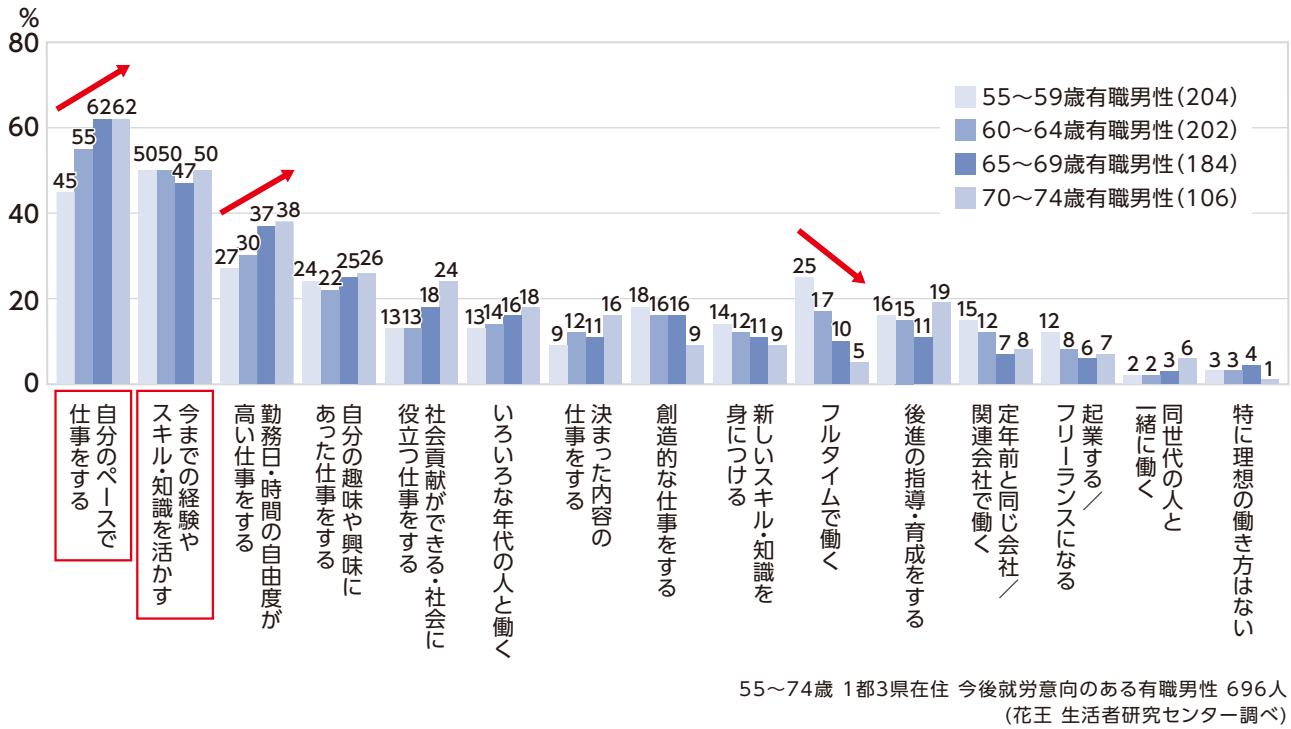
- 家族を養うものであると同時に自分に役立つ(61歳)
- 生きがいの一つ。自己表現(64歳)
- 仕事あつての休みのワクワク感(66歳)
- 人生の核になるもの、自分の成長(67歳)

社会貢献

- 社会の役に立ち、社会貢献になればさらに幸せ(66歳)
- 仕事は有料ボランティア(66歳)

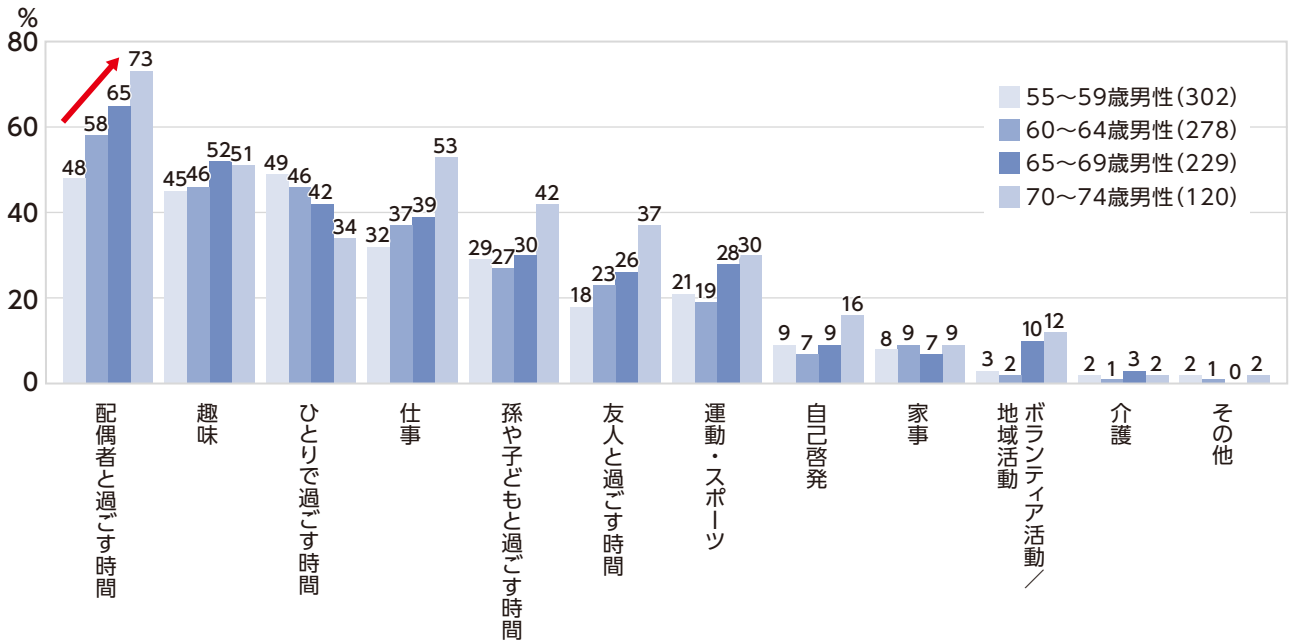
仕事は自分のペースで、家族や自分の時間を大切に

働く60代男性たちの今後の理想の働き方については、「自分のペースで」「経験やスキルを活かす」が5～6割と高くなっていました。また「フルタイムで働く」は年齢とともに低下し、「自分のペースで」「勤務日・時間の自由度が高い」が高まる傾向にあります(図6)。



(図6) 今後も働く場合の理想の働き方

また、彼らが現在、大切にしていることでは、「配偶者と過ごす時間」が最も多く、年齢とともに高まる傾向にあり、続いて「趣味」「ひとりで過ごす時間」が挙げられました(図7)。



55～74歳 1都3県在住 有職男性 929人
(花王 生活者研究センター調べ)

(図7)現在、大切にしていること

訪問インタビューから、60代男性たちは、50代までとは働き方や時間の使い方が変わったことで、「家族」や「自分」に向き合う時間を持てるようになり、これからはその時間を楽しみたいという意見が多く聞かれました。家族や自分のこれからの人生を大切にしたいからこそ、健康の重要性も感じていました。また、身だしなみや外見についても「人と会う時にはきれいにしておきたい」、「若々しく見られたい」「老けて見られたくない」といった、年齢を重ねたがゆえの意識・気配りが見受けられました。

働く60代男性たちのこれからの人生観(訪問インタビューより)

家族

- 濡れ落ち葉にならないようにする(61歳)
- 若い頃、妻には迷惑をかけた。これからは夫婦で楽しみたい(68歳)

健康

- 自主検診を受け、早めに予防(61歳)
- 自分も家族も健康で、楽しいことがいっぱいできる人生にしたい(66歳)

外見・身だしなみ

- 女性が化粧で元気が出るように、男性も元気が出るものが欲しい(61歳)
- 若々しく見られたい。老け込んで見られたくない。きちんと印象良くしておきたい(68歳)

不安

- 母が要介護5。毎週末に介護に行っている(62歳)
- 子どもの将来が心配(68歳)
- この先、年金だけで暮らしていけるか(61歳)

仕事・家族・これからの人生へのおもい

訪問インタビューで、現在働いている60代前半と後半の男性たちにそれぞれ、仕事・家庭・健康や身だしなみ、そして、これからの人生について聞いたところ、若い頃とはまた違った「働く」ことの意義を感じていました。

Aさん・62歳(施設管理)



定年後はセカンドライフではない。
生活が変わるだけで人生観は変わらない。

同居:妻(56歳) 長男(25歳) 長女(19歳)

これまでの職歴

メーカーの営業で、海外出張もあった。50歳の節目と、54歳の時にあった、会社からの案内・コンサルティングで再就職を考え、58歳で早期退職して現在の仕事に転職。

今の仕事について

- 健康保険等、福利厚生も含めて生活維持のため。
- 健康で規則正しい生活が送れる。
- 生活の中で大きな比重を占める。
- 社会(周り)の役に立つ。
- 機会を与えられて仕事をしている。感謝。

健康・身だしなみ

- 病気になって家族に迷惑をかけたくない。
- 身だしなみは、常識の範囲内で人に不快感を与えないようにしている。
髪を洗い、整える。ニオイは気にしている。
- 娘にも注意されるので、若くなりたいとは思わないが、若々しくいたいと思う。

これからの人生

- 仕事が無くなったら、健康で余暇・趣味を充実させたい。これからギターやピアノをやりたい。
- 妻とは共有できるもの(旅行、おいしいものを食べる、TVの話題等エンターテインメント)を楽しみたい。
- 子どもとは家族としていざとなったらお互い助け合う関係でいたい。

Bさん・66歳(防災センター)



仕事をしているから心身共に安定している。
仕事は“有料ボランティア”

同居:妻(64歳) 週3日パート
別居:長男(35歳) 長女(31歳)

これまでの職歴

メーカーの人事労務関係勤務。51歳で早期退職。52歳で外資系に転職。62歳で退職し、半年間職探し後、防災関連の資格を活かして再就職。

今の仕事について

- 社会とのつながりを持てる。社会貢献にもつながればさらに幸せ。
- 職探し中は毎日休みのつまらなさを実感。
- 仕事があるからこそその休みにワクワク感。
- お金があれば生活も豊かになる。

健康・身だしなみ

- 健康だからこそ欲求(楽しいこと・野球、旅行)が満たせる。
- 年をとっても健康で生きたい。ただ長生きしたいわけではない。
- 健康だから仕事が満足にできる。
- 老けて見られたくない。人と会う時はきれいにしておきたい。

これからの人生

- 自分も家族も健康で、楽しいことがいっぱいできる人生にしたい。
- 妻との旅行、親しい友人との懇談、孫の成長が楽しみ。
- ひとりではつまらない。

今回、訪問インタビューをした働く60代男性たちのなかには、50代で転職について考えたり、実際に転職や再就職をしている人が複数いました。60歳は働き方が変わる節目であっても引退とは考えず、60代以降を見据えて行動した様子がうかがえました。そして、現在は、「自分のペースで時間的なゆとりを持って働く」という選択肢が増えたことで、「働く」ことも生きがいや社会参加、コミュニケーションの場として捉え、充実感のある暮らしへとつながっているようです。一方で親の介護や子どもの将来などの心配事や不安もありますが、これからは「働く」ことも含めて、妻との時間や孫の成長、そして「自分の人生を楽しみたい」という前向きな声が目立ちました。

60代を見据えて、今後の生き方を考える

働き続ける60代男性たちにとって「働く」ことは、経済的な理由のみならず、「健康のため」や「生きがい」など、より良く生きていくための手段の一つとなっていることがわかりました。彼らの今を知ることは、これから60代を迎える世代にとっても、今後の働き方や生き方の参考になると思われます。これからの超高齢社会に向けて、まずは、自分は60歳以降、家族や大切な人とどうつながってみたいか、「働く」「働かない」の選択も含めて、どう過ごしていきたいかを描いてみるのが大切なようです。そして、そこへ向けてどう生きていくかが、人生100年時代を迎えつつある今、よりこころ豊かな将来のために大事であると考えます。

●お問い合わせ・ご意見は **花王株式会社 生活者研究センター**

〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3 TEL. 03-5630-9963(月～金 9:00～17:00) FAX. 03-5630-9584

くらしの研究 www.kao.co.jp/lifei/

※掲載の記事・写真の無断掲載・複写を禁じます。